



社会福祉法人愛知いのちの電話協会

名古屋いのちの電話

<http://www.nagoya-inochi.jp/>


自由と規律

理事 鈴木 郁 雄

この夏、印象に残る一冊の本と出合いました。タイトルは「自由と規律」。著者は慶応義塾大学教授であった池田潔氏。1949年に発刊され、昨年101刷目が出版されたというロングセラーの文庫本で、内容は著者自身の英国のパブリックスクールでの体験談です。

英国のパブリックスクールはその名前のイメージとは違い、全くの私立学校で、有名なイートン校とかリース校など、全寮制の中学・高校一貫教育の学校です。そして、ウィンストン・チャーチルなど多くの国のリーダーを輩出したことでも有名です。生徒の多くは当時の貴族や僧職の子弟で、どちらかと言えば裕福な家庭の出身者と言えます。リース校での体験によれば、寮生活は物質的には極めて制限されたもので、例えば、食事は、朝はオートミール少々、ソーセージ一片など、昼はじゃがいもと肉少々、午後に紅茶とパン、夕食はなし、寝具は真冬でも毛布2枚で暖房はなし、といった具合で、育ち盛りの青少年にとって苛酷ともいえるものです。そして、厳しい規律と監視の中での共同生活で自由とはほど遠いものと言えます。

パブリックスクールの教育目的は「精神」と「肉体」の鍛錬にあり、決して知識教育中心ではないようです。この厳格ともいえる規律の中で、耐える力（精神と肉体）・忠誠心・自律心、そしていわゆるノブレス・オブリージ（高い地位に伴う道徳的勇気・精神的義務）の心が育まれていくのだらうと思いました。

一方、彼らがその後進学するケンブリッジやオックスフォードという大学では一転して大いなる自由が与えられ、それぞれの個性を生かし、自らの人生の進路を見出していくということになります。

翻って今の日本の現状をみると、自由と豊かさばかりが目立ち、厳しさ、規律、忍耐といったものの影が薄いと感じざるを得ません。私自身も子どもの教育は遅きに失していますが、孫への甘い対応は反省せざるを得ません。厳しい規律という根っこー土台があってはじめて大きな自由という花が開くということを改めてしっかりと心に刻み込ませねばと思った次第です。

少し硬い話になってしまいましたが、今「愛知いのちの電話」も社会福祉法人として、財政状態、相談体制などまことに厳しいものがあります。創立以来の危機を迎えていると言っても過言ではないと思います。しかし、一方で、こういう苦しさに耐え、乗り越えてこそ、今まで以上に逞しく、素晴らしい「いのちの電話」になることを信じています。

年間自殺者は3万人を超えています。国も重要な政策課題として取り組んでいます。

そして何より、相談員の皆さまが一人でも多くの人の命を救おうという尊い志を持って毎日、24時間がんばっておられます。

この貴重なボランティア精神を生かして安心して思う存分頑張ってくださいのために、私自身にできることで力を尽くしたいと思っています。



市民運動としてのいのちの電話

日本電話相談学会理事・東京いのちの電話顧問 末松 渉

電話相談活動開始時期の相談員と運営の二つのエピソードをもとに、市民運動としてのいのちの電話のあり方を考えてみたいと思います。

*当時の関係者の思いを知るうえで、やや冗長な引用もありますことをお断りしておきます。

【電話相談活動の開始を前にして】

1971年10月1日午前零時、東京でいのちの電話が働き始めます。その時が現実になりました。これから何が起ころのか私たちは大きな冒険に挑むような気持ちです。・・・見もしらぬこの私みたいな者に、電話をかけてくれる人がいたら、私は感激して、一所懸命で会話するだろうと思います。何も言えないときは、その気持ちをそのまま表せたらそれでもいい、というような気がします。むしろムリをしったりしないように、と願っています。(季刊「いのちの電話」より)

(1) 人を思いやる心

日本での電話相談活動を呼び掛けた「東京望みの門」主管者ヘットキャンプさんは、心身ともに傷ついている女性たちや、自立と幸せを求めている女性たちを支える活動をしていました。「困っている人がいたら、放っておけない心、そして何かしたくなる心」、言い換えれば、思いやりの心が根っこにあります。個人的欲求・利己心を超えた「思いやる心」が、母国ドイツでの「テレフォン・ゼールゾルゲ」電話相談活動への想起につながり、呼び掛けに応じたご婦人方の心にしみ渡って行きます。

(2) 素の心

素の心は、自分や相手を卑下しない、過大評価しない態度とも通じています。あるがままの自分で、「出会い」の場に身を置き、一刻一刻変化している自分や相手と共有する時間にゆだねる姿勢。そこから生まれる新たな自分、相手、互いの関係を受け止めていこうとする素直な心です。素直になるためには、自分自身にそして相手に心を開く勇気が求められています。自然体の持つ強さ、素直な心に感じる強さは、この勇気です。

(3) 大海の一滴

社会的問題は、日常のささやかなこと・当たり前前に思っていることから起きています。その意味では、身近なことへの取り組みが、社会的な問題の解決につながっています。誰もが、自分が生きている証しを必要とします。自分の存在や価値を認めてもらいたいという欲求があります。

いじめ・子どもの虐待・子育て・自殺予防などの社会的問題は、心理的・社会的諸側面から取り組まなければなりません。同時に、身近な人から理解されているという感覚を日々の暮らしの中で経験することが求められています。

問題の原因や解決の取り組みを議論するだけでは解決につながりません。具体的なものに根ざしていなければ、日々の暮らしの中で悲喜こもごもを味わっている人々の心の潤い(生きる力)につながらないのです。

【法人認可の過程】

当時のいのちの電話の状況は、①基本財産としての自己所有の土地なし②同様の建物なし③諸設備不十分④基本金 200 万円だけで余力なし、という有り様で、社会福祉法人認可の申請には全く無理な状態であった。（『いのちの共振れ』より）

しかし、くじけることなく、関係者は法人化への運動を進めました。そして、関係者の熱意と英知で、次の法人運営留意事項が寄せられての法人認可書が交付されたのです。

（1）電話相談に応ずるときは、常に相手方の人格を尊重し、政治、宗教など特定の立場に偏ることなく誠意をもって当たること（2）業務の遂行にあたって知りえた個人の秘密の漏えいの防止につき十分な配慮がなされていること（3）相談内容及びその処理経過については一定の様式に基づく記録を作成し、少なくとも 5 年間は保存すること（4）医療、法律などの専門的知識を必要とする事項に関する相談に応じる場合は、医師、弁護士など専門家によって対処すること（5）相談内容が公的機関による手段にゆだねた方が適切と認められる場合は、相手方にその旨を告げ、または関係公的機関に速やかに連絡通報すること。

（6）相談内容から判断して、面接による相談が必要と認められる場合は、相手側の同意を得て、面接相談を行うこと。

（1）援助活動の社会的責任

見知らぬ者同士が出合い、個人的な体験・思いを語ります。心を許しているからこそその光景です。心を許す行為は、相手への信頼・時間を共にすることへの信頼と関係しています。上記留意事項の前半 3 項目は、「信頼の条件」を目に見える形にすることへの要望です。後半 3 項目は、一般市民、専門家や専門機関が、知恵と力を協力し合う必要のある問題と取り組む活動であることの認識です。

社会的問題は原因の特定・効果的アプローチの特定が難しい。その意味では、関わっている人々

が、現時点で協力できること、制約などを確認しながら進めていくことが求められます。

（2）援助活動を考えるためのキーワード

①ソーシャル・サポート：私たちが困ったときに力となるきっかけとなる援助に、情緒的・情動的・具体的なサポートがあります。情緒的なサポートは、心のバランスの回復と共に考える力の回復、そして一歩踏み出す力の回復を促すことです。情動的なサポートは、苦しみや悩みの元になっている問題に関する適切な情報を提供することで、解決への体験に役立てることです。具体的なサポートは、情緒的・情動的サポートが主に対話を用いるのに対して、経済的援助、労働的援助など目に見える形で行うことで、サービスを受ける人が自ら動く力を助長するものです。いのちの電話の活動は、情緒的・情動的サポートをしています。

②心の危機：これまでの自分の悩みや苦しみに対する乗り越え方が通用しなくなった時であり、日常生活を送るうえで、支障が出始めるなど、現在の適応状態をおびやされる状態です。普段は、生活をするうえで必要な考える力・感じる力・行動する力が働いています。しかし、これらの心理的機能が不全になる状態です。人生の節目には、私たちはこのようなことを体験するものですし、この危機を乗り越えてきているからこそ、生きているともいえます。ただ、体験には二通りあり、自分を生かす機会ともなるし、制約する機会になることもあります。また、予期しない出来事によって愛する人やものをなくしたり、身体に障害を生ずることなどもあります。適切な対処行動を身に着ける機会ともなれば、自分や他者を心身ともに傷つけるきっかけともなります。出来るだけ早くサポートが得られることが重要になってきます。特に身近な人が示す思いやり、語る（誰かと共に過ごす）体験が求められます。いのちの電話の活動は、自分が一人ではないこと、大切にされているということを感じる体験につながる出

会場の場とも言えます。

これまで、電話相談活動を組織として日本で初めて開始した時の息吹を伝えているコメントをもとに、活動を見てきました。「自分から奉仕をする人々－ボランティア」によって支えられる市民運動として位置づけたことは、当時の人々の英知を見る思いです。市民運動としての「いのちの電話」は、見知らぬ人との出会いを通して、社会的な問題の解決とも取り組んでいるのです。

同時に市民運動であるということは、どこかで活動の範囲を定めないと、無制限の内容・無期限の活動になり、実際に活動に携わる人がいつまでも目標に達しないという無力感・無能感を味わう結果になる可能性があります。この意味で、日常生活の美を説く柳宗悦の次の言葉は、市民運動を考える上で示唆に富んでいます。

「私たちは今まで美しさへの見方を、見る側からやしなってきました。…ですがその結果、我々の美意識に著しい墮落が来ました。…美を生活に即して味わうことはなくなってしまったのです。」(柳、1984)

色々な課題を考える時、活動の原点と上記に挙げたキーワードをもとに相談活動・研修・運営などを考えると、今後の取り組みの方向性が見えると思います。これについては、別の機会に譲りたいと思います。

参考文献：

- ・社会福祉法人いのちの電話『いのちの共振れーいのちの電話二十年史』1991
- ・柳宗悦『民藝四十年』1984

友の会だより

浜松市楽器博物館を訪ねて

今年度の友の会の恒例のイベントは浜松市楽器博物館を訪ねることだった。11月7日(水)、暑からず寒からずの絶好の日和であった。

参加者は現役相談員1名を交えて、総勢8名。往きの電車の中でも話がはずんだ。金森さんが久し振りに参加され、彼女から福島の被災地訪問のお話を伺った。現地の方の底知れぬ不安を聞き、深く感銘をうけた。

博物館は駅近く、静かなたたずまい。世界各地の伝統の楽器が蒐められている。日本の古代からの楽器(もちろん大陸伝来の)をはじめ、アジア・オセアニア・アフリカ・アメリカはじめヨーロッパの各時代の楽器が展示され圧巻である。

幸い楽器ごとにその音色が確かめられるように高性能のイヤフォンが備えられ、その場で聞くことができる。博物館は「見る」所と思っていたが、

個々のように「聞く(聴く)」所でもあることを実感した。

それにしても原始の各種打楽器の音のすさまじさ、村の祭りや儀礼の中心となるものだが、この音が「一致」を生み出したのだろう。

現代の音楽ではアフリカの起源と思われる音がふんだんだが、ハーブや笛を源にもつヨーロッパの音楽を圧倒する迫力がある。アフリカ起源の音がやがては世界の音楽の大勢を占める時代が来るのかもしれない。

私はオランダを旅して各地の楽器博物館(とくにオルゴール)を見てまわり、こんな博物館が日本にもあったものだが、どうして、それがごく近くにあるのだ。

友の会は電話相談のOB・OG(現役も可)がつくる。いのちの電話活動の応援団(会費1000円)年に1回のこんな楽しい行事もある。ご参加をお待ちしている。(会長 長岡利貞)

第30回いのちの電話相談員全国研修会 さっぽろ大会

2012年10月12日(金)～10月14日(日)

参加しての感想

☆大会のテーマ『支え合ういのちといのち-震災から一年半』は、斎藤環氏の基調講演、分科会、シンポジウムの中にしっかりと貫かれ、みんなとともに震災後を見つめ、考え話し合った3日間でした。

同じ目的のために集まった47センター700名の仲間の中に居ることは、それだけで力強く、安心感に満たされたひとときでした。

震災体験-そこから立ち上がりつつある人々の話には、頭の下がる思いでした。

私たちには、今、何ができるのか-。

「希望の国」に向けて真剣に考えさせられ、相談活動に新たな思いを感じる日です。

(相談員 M.T)

☆一言では言い尽くすことのできないほどの気持ちをいただきました。

沖縄から北海道と700人近い相談員が集まりそれぞれが他の協会の組織、また相談員の活動内容を話し合っている姿が印象的でした。

(相談員 A.S)



☆交流会はいつも開催センターの熱意が伝わるものが多いので楽しみです。他センターの人達と同じテーブルを囲み親睦を図ることができます。

他センターの情報も聞けます。

さっぽろ大会は基調講演、分科会、全般が震災に関するものが多かったようです。

私はいつも参加することで、相談員であることに気持ちの張りを持たせようとしています。

(相談員 M.K)

☆オレンジ色のスカーフと笑顔でたくさんの相談員の方の迎えを受けて約700名のさっぽろ大会が開かれました。

基調講演は斎藤環氏。東日本災害の支援者の支援が必要であると言われました。

PTGという考え方でトラウマを経験した後でおこる人間的な成長があるという事を話された時は何か希望を感じました。フランクルの「夜と霧」参考です。

パリーヌオンの方法では、グルーミングやじっくり聞くことの必要性や働く大切さを知りました。

人間には、レジリエンス(しなやかさ)で乗り越えていく能力があるがそれには、基本的な要因として無条件に肯定された経験を持っている事が大事とのことで、受容される必要性を実感しました。

2日目の分科会では「べてるの家の当事者研究」入門に参加しました。終了後、当事者の方で人間が怖いと話していた方が「電話したことはないが、そこにいのちの電話があることが救いだっただ。」と言われ、いのちの電話の裾野の広さと存在感を感じました。

3日目は災害にあわれた4人の方の発表でした。コメンテーターの方々も言葉につまられるものがあり、そして、震災ダイヤルはこれからもその人そのものを受け止める姿勢と知恵が必要と結ばれました。

改めて寄り添う大切さといのちの電話の役割りを知る思いがする大会で感謝がいっぱいです。

(相談員 M.I)

☆30回にも及ぶ全国大会研修会、秋も深まる札幌の地に記念すべき私の初めての参加が実現しました。

北海道の方々のオレンジ色のチーフ、コサージュ、温かいお出迎えと、全国から集まった700名の相談員や関係者の方々のパワーに圧倒されながらも充実した3日間を過ごすことができました。

今、震災後1年半を経て何ができるのかを提言いただき齋藤先生の基調講演。全国の仲間との楽しい語らい、北海道らしいおもてなしの交流会。

分科会での貴重な体験談。3日間のシンポジウム被災地4センターの方々の体験を涙ながらに拝聴しました。

相談員活動に広がりを感じ、新鮮な感動を得ることができました。

この思いを名古屋の皆さんにもお伝えし“来年はぜひ一緒に大阪へ!!”とお誘いします。

(相談員 M.S)

☆今回は、交流会のみの参加という事になりましたが、札幌で認定を受けたという事もあり、同期の方たちをはじめ、たくさんのなつかしい方々と再会し、話ができたといい事が最大の収穫でした。札幌・東京・名古屋と各センターでの特色を感じつつ相談員を続けられるという事を自分の幸運として受けとめられるようになったのも、私にとっ

ては大きなものになりました。

札幌大会は、とても多くの相談員さん達の目に見えない所での働きによる結果であると思います。

交流会も随所で心配りや北海道らしさを感じる事ができ、ほんわかした気持ちになりました。

一員であった事を誇りに思います。

(相談員 M.K)

☆私の全国大会参加の楽しみ ①基調講演とワークショップ。 ②一緒に行く仲間との交流や、他センターの人たちとの交流。 ③ワークショップ終了後に催される特別企画。今回も「楽しみ三つ」は十分に味わいました。

又、最終日のシンポジウムでは、震災で被災されたセンターの方々が自分の体験をそれぞれに話して下さったのですが、テレビの映像や音声、新聞記事でしか震災を知らなかった私は、この「体験談」に感銘を受けました。

(相談員 Y.K)

☆全国大会に参加して・・・

3年ぶり2回目の全国大会への参加でした。前回は興味津津での参加でしたが、今回は「得る+楽しむ」3日間でした。北海道いのちの電話の皆さんの心温まるおもてなしと貴重なお話と分科会での情報交換など・・・こんなに多くの相談員・関係者の方々が1本1本の電話を大切にしようとして日夜、努力している様子を拝見し、今自分の出来ることは何かをもう一度考えたいと思いました。

北海道の美味も堪能いたしました。

(相談員 K.T)



さっぽろ大会に参加した相談員の報告会。さっぽろ新聞の大会基調講演 齋藤環氏の記事と映画「希望の国」の掲示。参加者の感想と学んだ事のまとめや大会の写真等でさっぽろ大会の成果を報告しています。

ご援助ありがとうございます

2012年7月1日より10月30日までに下記の方々から暖かいご支援をいただきました。一同深く感謝いたしますと共に報告を申し上げます。(順不同・敬称略)

なお、上記期間内に何度もご寄付くださった方もお名前は1回にさせていただきます。

社会福祉法人愛知いのちの電話協会 理事長 小山 勇／財務委員会

賛助会員 A

白田 治子 下村 徹嗣 木本精之助 中野 悦美 石田 義人 前田 豊子 水谷宣美 柳原 佳枝
志村 信夫 志村 澄江 山下志津代 神野 啓子 榊 直樹

賛助会員 B

大森 正樹 中村かつ代 松岡 朱美 河野登喜子 塩野 高子 諏訪 昭子 坂東 信吾 岩田 久夫
野村 眞徳 遠山千寿子 橋本 茂乃 山本 幸江 青山 玄 伊藤恵美子 豊島 徳三 入谷なおみ
今枝 靖夫 河村 公子 後藤 進 榊 直樹 柳澤 幸輝 溝口 興治

賛助会員 C

岩佐 敏志 小川 義雄 小川マリ子 高本香代子 水野恵美子 飯塚 悦子 鈴木 浩之 藤井 直哉
山崎 京子 小野 宏 金子 紀子 鈴木美登里 林 温江 杵山 達雄 榊田 陽子 山下タカ子
中出智恵子 湯瀬美知子 鈴木 久野 鹿島 雅世 松村 睦子 志村 澄江

法人会員

杉山工業(株) 宝泉寺 (株)サンゲツ (株)ジェイテクト

寄付金・個人

加藤 倫子 希代美代子 岡崎 和子 十時豊代子 河村 和博 西山えつこ 渡辺香代子 塚田 道生
塚田 素子 加藤 迪春 高橋 勝人 末本 まき 鈴木 栄子 子安 崇雄 高橋紀代子 伊藤美佐子
鼓 美千代 野崎 雅子 永井 洋子 江口志のぶ 牛島 敦子 金子 範子 水谷 吉子 下村 明子
井上靖一郎 小川 邦泰 堀田 直子 岩間 哲郎 稲垣 吉孝 伊藤 慎吾 杉藤はる子 小栗 厚紀
宮里 及子 榊 直樹 山本 秀樹 加藤みゆき 服部 由美 大澤 一矢

寄付金・協力団体

(株)近江屋 崇覚寺 大須観音寶生院 杉浦製作所 専念寺 (株)みどり造園 川北電気工業(株) ホーユ(株)
ベルの会

クリスマス募金・年末募金

岡田喜美江 榎本久美江 武田 京子

クリスマス・ 歳末 特別募金 のお願い



本年も間もなく、クリスマス・歳末の季節をむかえようとしています。例年この時期に「いのちの電話」の活動のために、特別募金を行っております。

今年度も何卒よろしくご協力をお願いいたします。

送金先：三菱東京 UFJ 銀行大津町支店 (普) 477029

郵便振替口座 00810-8-53758

口座名：社会福祉法人 愛知いのちの電話協会

事務局だより

電話担当についての話し合い

ベルの会において、名古屋いのちの電話の課題の一つである「担当表が埋まらないこと」への話し合いが続けられています。KJ法による「A帯にチャレンジ！」を事務局に掲示されたグループもあります。サポートグループや担当者の苦労は続きますが、相談員の意識は高まっています。

事務局紹介（スタッフからの一言）

兼田智彦事務局長：社会福祉法人愛知いのちの電話協会の事務局スタッフをまとめ、理事会・評議員会・各委員会・電話相談員をつなぎ、外部とのさまざまなつながりを円滑に行う役目だと思っています。

本業の合間を縫ってのボランティアですので、十分なことはできませんが、いのちの電話の使命である「自殺予防活動」が少しでも達成できるように力を尽くしたいと思います。どうぞ、よろしくをお願いします。

河村公子事務局次長：相談員に関する事務を担当しています。相談員の絆を強めるために休会者へのお手紙を届けるなどしています。長い時間事務局にいますので、皆さんから労いの言葉かけをたくさんいただき、嬉しく思います。

伊藤美佐子：担当表を中心に、相談員名簿の管理などを中心に仕事をしています。担当表では苦労も多くありますが、皆さんに声かけをすると快く引き受けてくださる方が多く、ありがたく思っています。担当枠0はありません。

西山えつこ：養成委員でもあり、養成の仕事を主にしています。21期生の10月27日28日の一泊研修が終わりました。新たな相談員として研修された方々、スタッフ共々、熱心に取り組み、充実した思いを得ることができました。研修の様子を皆さんにもお伝えしていこうと考えています。

高橋紀代子：パソコン入力、統計事務を担当しています。毎月締め切りに迫られ苦労もありますが、相談員の皆さんの温かい声かけと応援と事務局の仲間に支えられています。これからは統計を活動に活かしたいと考えています。

山崎由美子：寄付金を含む経理の仕事をしています。広報誌の発送直後より、賛助会員他皆様より寄付金をいただきました。多くの方々を支えられて活動していることの幸せを感じています。

末本まき：物品管理、事務局内整備を中心に仕事をしています。事務局に携わり、改めて「いのちの電話」に関わる方々に頭が下がる思いです。「お疲れ様」「ご苦労様」と、これまで顔を合わせる機会が少なかった方々とも親しくお話しできるようになり、嬉しく思っています。

賛助会員を募集しています

ご協力をお願いします

いつも資金ボランティアとして会費やご寄付をいただき有難うございます。心から御礼申し上げます。

会員の皆様の倍旧のご支援と共に、会員増加の運動にもお力添えを賜りますようお願いいたします。

社会福祉法人として寄付金の税法上優遇措置が受けられます。誠に失礼ですが振込票を同封させていただきます。ご利用くだされば幸いです。

- (1) 法人会費 年間5万円・10万円・20万円 (2) 賛助会員（年間1口） A 10,000円 B 5,000円 C 3,000円
(3) 一般募金はご自由な金額で結構です (4) 夏期及び歳末寄付の特別募金

口座名 社会福祉法人愛知いのちの電話協会 口座番号 三菱東京UFJ銀行大津町支店（普）477029
郵便振替口座 00810-8-53758

社会福祉法人愛知いのちの電話協会

2012年11月

〒461-8691 名古屋東郵便局 私書箱第257号

2012年11月30日発行

事務局 ☎ 052-508-8381 FAX052-508-8384

発行人 小山 勇

<http://www.nagoya-inochi.jp/> E-Mail info@nagoya-inochi.jp

編集人 愛知いのちの電話

相談電話 ☎ 052-931-4343 携帯相談電話 NTT ドコモ東海「# 9556」

協会事務局